

最優秀賞

東広島市 『広報東広島』（令和元年 11 月号）



- 発行部数(年間発行回数): 93,600部(12回)
- 担当課: 広報戦略課
- 連絡先: 082(420)0919

**【担当者より(主な記事の掲載意図)】**

広島県内で最も外国人市民の割合が高い東広島市だが、市民意識調査では「習慣や文化の違いに対する不安がある」という回答が最も多かった。一方で「普段外国人に接する機会がある」ほど「外国人に好意的な印象を持つ」傾向が明らかになったため、不安を払拭し、気軽に日常生活での交流を促す紙面展開を目指した。

外国人と日本人双方が日々の生活の中で感じた疑問や驚き、留学生の多い東広島ならではの学生生活や考え方を紹介するとともに、実は多くの外国人市民が日本語での会話ができることや、「やさしい日本語」のテクニックも併せて紹介し、思考のプロセスを共有することで、市民の意識・行動変容を促す展開とした。

＝講評＝

- 留学生などが多い東広島ならではの視点の企画で面白い。外国人が感じている東広島での暮らしという現状の様子を伝えることに加え、日本人がやり取りする時のコツなど、行動を促すまでがセットで掲載されているのが良い。
- 表紙のキャッチがよい。一目で特集の意図が理解できるほどだ。驚いたこと、びっくりなところの内容が注目度高い。
- 人物を丁寧に取材し、必要なことを聞き出している印象。どの記事も読みごたえのある内容だった。
- 読ませるような工夫がデザインに施されている。ページをめくるたびに飽きさせないレイアウトになっているので、どんどん読み進めてしまう。写真、文章、余白などのデザインバランスが良い。

優秀賞

廿日市市 『広報はつかいち』（令和元年9月号）



- 発行部数(年間発行回数): 49,500部(12回)
- 担当課: 経営政策課
- 連絡先: 0829(30)9121

【担当者より(主な記事の掲載意図)】

全国的に教員の過重労働が問題となっています。

普段はなかなか知る機会がない教育現場の実情や課題、その解決に向け本市が取り組んでいることなどは、子を持つ親世代はもちろん、地域住民にとっても知りたい内容・知らせるべき内容だと思い、特集として取り上げました。

先生が、授業やその準備、子どもとの人間関係づくりなど「先生にしかできない業務」に専念できる教育現場を整えることは、未来を担う子どものために必要なことだと思います。読んだ人に、取材で聞かせていただいた現場の声と、子どもの教育は学校だけではなく地域や家庭、協働で担っていくという市の方針を広く伝え、共感してもらえるよう編集しました。

＝講 評＝

- 一見理解しづらい課題を分かり易く具体的に解きほぐしている。表紙に好感が持てるので特集に先入観が払拭される。
- 教育現場の実情に迫る、意義のある企画と感じた。全国ニュースなどで目にすることはあっても地域の詳細は分からないもの。廿日市市学校における働き方改革取り組み方針の掲載や、実際の地域の学校の先生の意見など、リアルな情報が載っている、本当に市民が知りたい企画だと思う。
- 全国のデータや各所への取材など丹念な制作がされている。
- 写真や一日の例など、うまく活用している。二色づかいであってもデザインの工夫で見やすい。
- 情報が多いが、見やすいのはレイアウトに工夫があるからだなと感じる。教員の一日や、グラフなど視覚で伝える箇所と読ませる箇所のバランスも良い。